

I . 業績概要

平成29年度決算のポイント

預貸金

収益の基盤となる預金残高・貸出金残高は、ともに堅調に増加

・ 預金+NCD残高	7兆8,257億円	(前年度比 +2,298億円)
うち個人	4兆5,297億円	(前年度比 +1,431億円)
うち法人	2兆2,843億円	(前年度比 +992億円)
・ 貸出金残高	5兆2,741億円	(前年度比 +2,872億円)
うち中小企業等貸出	3兆5,351億円	(前年度比 +2,027億円)

収益

純利益は単体・連結ともに増益 (前年度比)

・ 当期純利益 (単体)	183億円	(+6億円)
・ 親会社株主に帰属する当期純利益 (連結)	193億円	(+7億円)

2. 平成29年度決算概要

【単体】 (単位:億円)

	28年度	29年度	前年度比
業務粗利益	802	791	△11
資金利益	655	705	50
役務取引等利益	82	88	6
その他業務利益	63	△3	△66
うち国債等債券損益	62	△5	△67
経費	585	582	△3
業務純益	216	208	△8
コア業務純益	154	214	60
臨時損益	34	34	0
うち不良債権処理額 (A)	2	1	△1
うち貸倒引当金戻入益 (B)	10	5	△5
うち株式等・金銭の信託関係損益	17	19	2
経常利益	251	243	△8
特別損益	△1	13	14
当期純利益	177	183	6
信用コスト (A)－(B)	△7	△3	4

【連結】

連結粗利益	845	842	△3
連結業務純益	243	236	△7
親会社株主に帰属する当期純利益	186	193	7

主な増益要因

- ・貸出金利回は低下したものの、配当収入の増加による資金利益の増加(+50億円)
- ・退職給付制度のDCへの一部移行に伴う特別利益(+22億円)

主な減益要因

- ・上記増益要因や市場環境を勘案し、国債等債券損益を減少(△67億円)

連結

- ・開業3年目の黒字化を計画していた京銀証券が初年度から黒字化し、連結業績に寄与

3. 平成30年度決算見通し

【単体】

(単位:億円)

	29年度	30年度 (予想)	前年度比
業務粗利益	791	824	33
資金利益	705	717	12
役務取引等利益	88	105	17
その他業務利益	△3	2	5
うち国債等債券損益	△5	△6	△1
経費	582	591	9
実質業務純益	208	233	25
一般貸倒引当金繰入額 (A)	—	△4	△4
業務純益	208	237	29
コア業務純益	214	239	25
臨時損益	34	23	△11
うち不良債権処理額 (B)	1	9	8
うち貸倒引当金戻入益 (C)	5	—	△5
うち株式等・金銭の信託関係損益	19	13	△6
経常利益	243	260	17
特別損益	13	△3	△16
当期純利益	183	185	2
信用コスト (A) + (B) - (C)	△3	5	8

【連結】

親会社株主に帰属する当期純利益	193	200	7
-----------------	-----	-----	---

業務粗利益

貸出金利回の低下抑制や、個人・法人両面での役務取引の拡大により、前年度比増加を図る

当期純利益

生産性革新の施策推進による経費の増加や、前年度計上の特別利益の剥落があるものの、前年度を上回る水準を見込む

連結

前年度に実施した子会社の持分比率引き上げの効果もあり、連結の純利益は200億円を見込む